

004 TICA

題名	作者	コメント	コメコメント
グロテスク 文芸春秋	桐野夏生	東京電力の女性殺人事件をモチーフにした作品。こんな題名の本、借りるのいやだという娘に拝み倒して学校の図書室で借りて来てもらった。拝んだ甲斐がなかった。	時間の無駄でした。
Jの神話 講談社	乾くるみ	770円も出して買った。この小説が取ったメフィスト賞を信じない。乙一の本を読んでいたら、メフィスト賞のトロフィーはロンドンのシャーロックホームズ博物館で数ドルで売られているホームズ像だと書いてあった。数ドルならちょっと欲しい気もする。	お金の無駄でした。
小生物語 幻冬社	乙一	乙一のhpの日記を本にまとめたもの。適当な文章に笑える。C a c c oは乙一の小説のラストが好きじゃないという。切なさのまま終わって欲しいらしい。私はラストが好きなんです。この本でも、こういう文章が好きだと言ったら解からな～って言われた。 今日もまた「こんなことをしている場合じゃないのに」の練習をした。いつにもまして「こんなことをしている場合じゃないのに」だった。それから久しぶりに「少しだけの仮眠のはずだったのに」をやろうとした。90分の仮眠をとろうとしたらうっかり8時間も眠った。自分もなかなか「少しだけの仮眠のはずだったのに」が上達したなどと思った。 乙一のためにいうと、小説はこんなふざけた書き方はしていないので安心して読んでみてください。	C A C C Oから借りた。 乙一がスノボにはまるのは意外だと言ったら、一人で行くというのが乙一たるところだとC A C C Oは言った。納得した。
日暮らし (上下巻)	宮部みゆき	「ぼんくら」を読み直してから読んだほうが良かった。同心平四郎が美少年の弓之介の力を借りて、殺人事件を解決して行くが、犯人探しや殺害の動機はどうでもよく、人間模様で読ませる。ただ弓之介のキャラクターは、おねしょをするということで子どもらしさをだしているけど、ちょっとできすぎでコナンみたい。	健ちゃんから借りた。久しぶりの宮部さんで嬉しかった。時代物は安心して読める。
FLY、DADDY、FLY (講談社)	金城一紀	流れは軽くて楽しく読める。でもその軽さの中に、日韓ハーフの立場の台詞が出て来る。その辺は直木賞受賞の「GO」と同じ。韓国人だけが通称の日本名をもつことや、ザイニチって呼	C A C C Oが新刊を買うなんて珍しいなと思いつつながら表紙を開いて嘆息した。

		<p>ばれるのって変だよね。さすがに日本で生まれ育って日本語しか話せない人まで、定期的に指紋とるのはもうやめたらしいけど。そういうことまで韓流ファンのオバサンたちが考えてくれたら変わるよね、きっと。</p> <p>で、本のほうだけど、前作の「レボリューションNO. 3」を読んでいないので、高校生の男の子の集団のことがよくわからなかったのが残念だった。40代サラリーマンの人生の変化が、いつも帰りのバスで一緒になる乗客たちとの関わりで解かって楽しい。</p>	
<p>十角館の殺人 (講談社)</p>	<p>綾辻行人</p>	<p>本格推理小説。殺人事件があった島に渡るミステリー研の7人。そこでもまた予告どおりの連続殺人事件が起こる。7人はそれぞれ名探偵の名前で呼び合っているのが、とても不自然で気になっていたら、そこに大きな伏線があった。6人を殺す動機がすごく普通で弱い感じがした。</p>	<p>読み始めたら、前に読んでいたとわかったけど、すっかり忘れていたから面白く読めてよかった。</p>

